

サイの御教え 一九六六年ダシヤラー祭連続講話③  
残高ゼロを達成しなさい

ここでのダシヤラー祭のプログラムには、さまざまなものがあります。たとえば、ヴェーダヴェーダパーラーヤナの吟唱、神の御姿への供養礼拝ブージャー、貧しい人たちへの食事の提供、劇、音楽、ハリカタハリカタ〔神話の講談〕、プラーナプラーナ（道徳的な古代神話の叙事詩）の朗読、シャーストラシャーストラ（経典）についての講義、等々を皆さんは目にするでしょう。表面的には明白でないかもしれませんが、これらはすべて、種々の目的を持って企画されています。皆さんは、これらはどれも習慣や伝統として行っているだけだという印象を持つかもしれませんが、しかし、そうではありません。それぞれが深い重要性を持っているのです。どれも、何らかの階層に明確な有益さをもたらすように意図されているのです。

ヴェーダは全人類のためのものです。ヴェーダには平和のための祈りがあり、五元素の怒りと人間社会の怒りを鎮めます。ヴェーダは自然の力を呼び覚ま



ヨーガは、「チッタ ヴリツテイ ニローダハ」——人間の内なる意識を揺り動かす衝動を防止する手段である——と定義されています。そうした衝動はバラスト〔高度調節のために気球などに積む重荷〕を増やします。あなたを引きずり下ろそうとする欲望をなくしなさい。真理<sup>サティヤ</sup>とだけ向かい合うことを切望しなさい。真理は、あなたの内側で輝いていて、あなたに見つけられるのを待っています。膝の深さの水に立っていないが喉の渇きに苦しんでいるドービー（川で働く洗濯屋）のように、人間は簡単に手に取ることができらるゆる問題の解決策がありながら苦しんでいるのです。

神は内に住まう者（アンタラーヤミ）です。ですから、神を外の世界に探すなら、神をつかまえることはできません。他のことは何も考えずに神を愛しなさい。神がいなければ何にも何の価値もないと感じなさい。神がすべてだと感じなさい。そうすれば、あなたは神のものとなり、神はあなたのものとなります。神より近い親族はいません。五十人の人が、お腹をすかせて、

期待して台所をのぞいていても、もしあなたがその家の主人の子供なら、あなたに最初に食事が出されるのです。

御名<sup>ナーム</sup>は、その愛の火花に火を点けることができます。いくらから時間をかけて二本の木の枝を強くこすり合わせると、火が点くの十分な熱が生じます。それと同じように、御名を、早く、強くこすり合わせると、心にグニヤーナ（<sup>マインド</sup>靈性の英知）の火花が点火します。「ゲニヤーナゲニダグダ カルマーナム」——英知の炎はすべての行為の応報を灰にする——とギターは述べています。それはもはや人間に何も影響をもたらしません。灰になってしまったロープのように、それはもはや縛ることはできないのです。カルマ（行為）の因果が根強く残っている限り、人間は生まれ変わってカルマの報いを消費しなければならぬ運命にあります。なぜなら、カルマの帳簿は、生と死の収支計算が残高ゼロで終わることができるよう、きれいにされなければならぬからです。欲望は、すべての行為の背後で駆り立てられます。すべての行為の背後で行為をけしかけているのは、欲望です。衝動を駆り立

てるものは、欲望です。すべての欲望を果たした人には、行為は生じません。なぜなら、その人は欲望のないアートルマの中で休んでいるからです。

カルマの応報の残高をぬぐい去りなさい

カルマの応報の残高が残っていると、何年かの間、肉体の中に投獄されてしまいます。シャーストラは、四つの段階によって残高をぬぐい去らなければならぬと、助言しています。それは、火から生じるすべての火花を消すこと、熱の表出と熱の兆候と熱の原因を取り除くこと、債務の残高を完済すること、そして、カルマの応報の一切をすっかり経験してしまうことです。一つの火花がもう一つの火を生じさせるかもしれません。一つのウィルスが素早く増殖して病気が再発するかもしれません。少しの負債が高い利息によってすぐに跳ね上がってしまうかもしれません。けれども、一つのカルマは、それがどれだけ古い行為であっても、果報を求める気持ちを持って為されたならば、その果報を得るために生まれ変わってくるのが必然と

して伴われてしまうのです。

最初の段階は、カルマ ジグニャーサー、すなわち、正しい精神的態度、正しい方向に沿って行為を実行することです。次は、ダルマ ジグニャーサー、すなわち、社会の維持と自分の責務と義務の遂行のための道徳律を守ることです。最後は、ブラフマ ジグニャーサー、すなわち、第一のサーダナとしてのナーマスマラナ〔唱名〕の真価を知ることになります。

御名は砂糖です。あなたは砂糖人形をどんな形にでも作ることができずし、猫、うさぎ、鷲あるいは象など、その形にふさわしいどんな名前でも呼ぶことができませんが、甘さとカロリーの価値はどの砂糖人形も同じです。それと同じように、ナーマスマラナというサーダナに従事するときには、「オーム シャクテイ」、「オーム ナーラーヤナ」、「オーム シュリーニヴァーサー」、「オーム パラマートルマ」、「オーム サイラーマ」など、唱える御名は自分で選択することができますが、御名の癒しの価値、浄化の価値は、どれも同じであり、舌の上での甘さもどれも同じです。

神へと向かう旅を始め、軽快に旅をしなさい

ナーマスマラナはあなたを神を想うことに専心させるでしょう。今のあなたは、ムリダンガという太鼓の中に捕らえられた、ネズミのようです。太鼓の右面を叩けばネズミは左側に走り、左面を叩くとネズミは怖がって右側へ走ります。それと同じように、あなたはパラマートマからプラクリテイ（物質世界）へと走り、神への専心に乗り気ではありませんが、それと同時に、世俗的な行いを否定したり失望したりすることから退いているのです。

あなたは神から来しました。あなたは神の栄光の花です。あなたは至福の海の波の一つです。あなたは、再び神に帰融する時、初めて平安を手に入れるでしょう。道に迷った子供のよう、あなたは母と再会した時、初めて喜びを得ることができます。海の滴は、蒸発して上昇し、雲と呼ばれる集合体の一つになって地上に降り、谷に沿って流れ、最終的に海へと辿り着きます。それと同じように、あなたが見失つ

てしまった海へ辿り着きなさい。その旅を始め、早く、軽快に旅をしなさい。

マクレイ夫人は、あまりにも信愛に満ちているがゆえに、私と関係のあるどんな場所でも、言葉では言い表せないほど神聖なものを見なします。そのため、マクレイ夫人は、先日、村へ行き、このサイが再び肉体を持って現れた家の敷地から大小の石を拾ってきました。そこにあつた石はどれも、マクレイ夫人には魅力的で貴重なものに見えました。そのため、彼女はバケツ一杯の石を自分の部屋に持ってきたのです。テヘラン、ローマ經由ニューヨーク行きの飛行機に乗るには、それはあまりにも重い荷物になるということに、マクレイ夫人は気がつきませんでした。多くを積み込んではありません。なぜなら、いつの日か、あなたはそれらを捨てなければならぬからです。信愛を心に抱き、気持ちと態度と献身を養いなさい。それで十分です。

人間の運命を形作る上でのカルマの重要性。人間は、

生まれて来なくなる段階を目指す進歩の過程で何度も生まれ変わってきているという事実。人間を救うため、そして、人間を通して世界を救うために、神聖な親交において自らの周りに人々を集めようと、人間の中に人間としてやって来た神の巨大な恩寵。――これらが、とても強く、はつきりと明言されているのは、サナータナ ダルマ（永遠の道德律）においてのみです。

もしこれらの偉大な真実を少しでも疑うなら、あなたは確実に苦しみ、悲嘆に暮れるでしょう。あなた方の誰もが、すべてに慈悲深い神の恩寵により、遅かれ早かれ救われなければなりません。遅くなるよりは、早くそうなるようにさせなさい。いつも目的地をはつきりと見据えて、歩き続けなさい。

ダシヤラー祭

一九六六年十月十七日

Sathya Sai Speaks Vol.6 C30